

民主島根

2016年
5.22
第1263号

発行所 松江市袖師町3-6 TEL 0852-24-2444
日本共産党島根県委員会 FAX 0852-24-6369

松江、出雲で日本共産党演説会開く 野党統一候補勝利、比例での党躍進を 紙智子参議院議員、春名元衆議院議員ら770人に訴え

日本共産党の紙智子参議院議員を迎えた演説会が15日、松江市と出雲市で開催され、参院鳥取・島根選挙区の野党統一予定候補・福島浩彦氏の勝利と党の躍進へ、会場は熱気に包まれました。

福島氏、民進・社民も連帯あいさつ

松江会場のテルサホールには370人が参加し、出雲会場の朱鷺会館には400人が参加しました。紙氏は「戦争法廃止のたかいで、一人ひとりが主権者として考えて行動する新しい市民運動が湧き起こり、発展している」と強調。衆院北海道5区補選にもふれ、「参院選で野党共闘の力を証明しよう。福島さんを勝たせ、共産党を躍進させてほしい」と比例代表選挙で9人の当選を呼びかけました。

福島氏は「何としても安倍政治を止めて政治を変えたい。戦争法と憲法改正は絶対に止めねばならない」と語りました。島根県党として初めて民進党と社民党から連帯の訴えがあり、出雲市では民進党の米山広志県連副幹事長と社民党の福原宗男県連代表が、松江市では

邑南町落石事故の再発防止を 遠藤氏、県議団、大和町議ら県へ要請

邑南町戸河内の県道で4日、県道斜面から落下した岩が軽自動車にぶつかり、女子学生が死亡した事故で、日本共産党県議団は13日、富樫篤英県土木部長に、「落石事故の再発防止、安全・防災を中心とする土木行政への転換を求める」申し入れを行いました。遠藤秀和党県政策委員長、尾村利成、大國陽介の両県議、大和鷹美邑南町議、向瀬慎一西部地区委員

民進党の角智子県連副代表と社民党の細田実県連幹事長の4氏が「野党共同で福島氏の勝利を」と述べました。春名なおあき元衆議院議員が「歴史の逆流と本流が激突する参院選。本流を大きく進め、日本の新しい政治を切り開く選挙に」、遠藤秀和党県政策委員長は「誰もが大切にされる政治を一緒に」とそれぞれ訴えました。

（右から）遠藤、福島氏ら（右下）。



（左から）紙氏ら（右下）。



長が出席しました。（写真）参加者は「安全対策が施された箇所での事故であり、対策が完了した箇所の総点検と未対策箇所（1350箇所）の対策を早急に講じる必要がある」と述べ、①落石の原因究明と道路パトロール等の点検方法、安全対策の徹底した検証②新規建設から修繕・維持・管理を中心とした安全・防災事業予算の大幅増額③住民や地元建設業者、森林組合と共同した点検活動など地域密着型の管理体制の構築などを求めました。

富樫土木部長は「今回の事故を重く受け止めて防犯委員会を設置して原因究明と再発防止をはかるとともに予算付けを強化する」と答えました。尾村、大國両氏は「住民合意のない松江北道路建設は中止し、県民の命と安全を守る事業を優先した土木行政へ転換すべき」と強調しました。遠藤氏は8日、現地を訪れ、事故現場を調査していました。



島根原発1号機 廃炉計画説明会 核燃料搬出などに疑問 —尾村、大國県議が中電にたがす—

中国電力は10日、松江市で県議会や自治体を対象に島根原発1号機廃炉計画への説明会を開催。県議からは使用済み核燃料搬出や青森県六ヶ所村再処理工場稼働への懸念の声が相次ぎました。日本共産党の大國陽介県議は「使用済み核燃料の搬出を2029年に完了というが、再処理工場の稼働は高速度増殖炉もじゆの開発は頓挫しており、使用済み核燃料を再処理して再利用する核燃料サイクル破綻していることを直視すべき。原発再稼働など論外だ」と強調しました。

鼓動

この季節が一番好きだ。風薫り、目にやさしい新緑の青葉の中で大きく深呼吸すると、空気のおいしさを感ずることが出来る。「ああ生きていくってすばらしい」と思う至福の瞬間でもある。とくに、島根県はどこに行っても自然を満喫できる。都市部であっても町の中を流れる小川に、しだれ柳が風にそよぎ、松の緑が水面に浮いて歴史の風情を漂わしている。もちろん田畑が広がる平野部、様々な木々や草花が芽吹く山あい、そして風光明媚な長い海岸線と、この時季ならではの風景は絶品だ。小誌の連載は中止したが、今も「出雲国風土記散策」は続けている。風土記とカメラを片手に、ゆかりの地を訪ね、拙い散文を書いていく。すでに、80回を超えた。時たま、年金者組合の県機関紙「こぶし」に掲載させてもらっている。島根の自然のすばらしさとともに、古代の出雲人が眺めた光景にも出くわす。そこがなんともたまらない。以前にも書いたが、この散策を始めたきっかけは、風土記研究の第一人者である関和彦氏の一文との出会いだ。「風土記は机上で読むものではない。風土記を持ってぜひ地域を歩いてほしい。歩けば、古代びとたちの喜怒哀楽や出雲が持つ豊かな自然を体感できる」とあった。まさに、その通りであった。そして、「そうしたことを重ねてゆくと、出雲には約1300年前の風土記に記載された多くのものが今もたくさん残されていることに気付く。それが日本の中における出雲の素晴らしい個性であり、今を生きている人たちの誇りに繋がるはずだ」と結んでいた。出雲国9郡のうち4郡を歩いてきた。さあ、古代に想いを馳せて、残り5郡の散策に出かけよう。（吉）